

## 無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集(ム05)

**目 的** 無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

- 成 果**
1. 韓国文化財庁国立無形遺産院との研究交流では、本研究所の研究員の派遣と相手機関研究員の受け入れを予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止せざるを得なかった。代わりに両国のコロナ禍における無形文化遺産保護の現状について情報交換を行った。
  2. 無形文化遺産の国際的な動向に関する調査研究では、新型コロナウイルス感染症拡大のためオンラインでの開催となったユネスコ無形文化遺産条約第15回政府間委員会(議長国ジャマイカ:2020(令和2)年12月14日～19日)に2名のスタッフ(石村・二神)がリアルタイムで傍聴し、情報収集を行った。なお本調査の成果は『無形文化遺産研究報告』第15号において報告した。
  3. アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)への協力では、国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究:教育とまちづくり」(2021(令和3)年1月28日～29日)に1名のスタッフ(石村)がリソースパーソンとして出席した。
  4. 新型コロナウイルス感染症拡大の状況における無形文化遺産の現状と課題について、国内外の情報を収集し、それをウェブサイト及びSNSによって発信した。またユネスコのウェブサイトにはコロナ禍における日本の無形文化遺産の現状と課題の報告を掲載した。

**論 文**・T. Ishimura: Issues regarding the protection of intangible cultural heritage related to religion in Japan. S. L. Wang et al. eds, Heritage and Religion in East Asia. Routledge. pp. 187-203 21.1

**報 告**・T. Ishimura: Performing arts, traditional craftsmanship and festive events in Japan. Living heritage experiences and the COVID-19 pandemic <https://ich.unesco.org/en/living-heritage-experience-and-covid-19-pandemic-01124?id=00073> 20.4

・二神葉子:「無形文化遺産の保護に関する第15回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」『無形文化遺産研究報告』15 pp.51-74 21.3

・石村智:「コロナ禍における無形文化遺産の情報収集・発信」『無形文化遺産研究報告』15 pp.23-30 21.3

**研究組織** ○石村智、金昭賢(以上、無形文化遺産部)、二神葉子(文化財情報資料部)、宮田繁幸、松山直子、神野知恵(以上、客員研究員)

## アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (コ02)

**目 的** 東南アジア、西アジア及びその周辺地域における文化遺産の保存活用に関する調査研究の実施及び当該地域で行われる文化遺産の保存修復事業への協力を通じて、我が国が有する文化遺産保護に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

- 成 果**
1. カンボジア アンコール・タネイ寺院遺跡保存整備事業に対する支援等
    - ア) 東門の修復工事に対する情報通信技術を活用した技術的支援の実施  
アンコール・シエムレアプ地域保存整備機構 (APSARA) が実施する修復工事の内容をメッセージサービス (SNS) 等によりリアルタイムで把握し、工事の進捗に応じて修復や補強の方法を協議するためのオンライン会議を開催 (2020 (令和2) 年4月21日、5月19日、7月17日、9月1日、10月6、14日、11月27日)
    - イ) アンコール遺跡保存国際調整委員会技術会合への参加及び事業報告  
アンコール遺跡国際調整委員会 (ICC-Angkor) への定期的な事業報告の提出 (6月、11月)、第34回ICC技術会合への事業プレゼンテーションビデオの提出及び同会合へのオンライン参加 (2021 (令和3) 年1月26日～27日)
    - ウ) 東南アジア考古学会2020年度大会における「アンコール・タネイ寺院遺跡の保存整備」の報告 (12月12日)
    - エ) 研究所エントランスロビーパネル展示「カンボジア・アンコール・タネイ寺院遺跡東門の修復」(7月4日～2021 (令和3) 年6月2日)
  2. ネパールの被災文化遺産保護に関する支援  
カトマンズ・ハヌマンドカ王宮シヴァ寺の復旧工事に向けたJICA長期派遣専門家等への資料提供及び技術的助言のための協議を実施 (7月29日、10月23日、12月16日、25日)
  3. ペルシア湾岸諸国における協力(相手国調査)  
ペルシア湾岸地域の文化遺産保護協力の需要を調査するため、サウジアラビア王国、バハレーン王国、オマーン国、アラブ首長国連合及び当該地域の水中文化遺産保護の現状を対象とした関係者へのオンラインインタビュー等を実施(11月18日、26日、12月10日、1月18日)
  4. オンライン研修及び研究会
    - ア) 研究会(ウェビナー)「東南アジアにおける木造建築遺産の保存修理」の開催(11月21日)
    - イ) オンライン国際研修「3次元写真測量による文化遺産の記録」の開催(11月12日、25日)
- 論 文**・森朋子、浅田なつみ、SHAKYA Lata: 「カトマンズ盆地内歴史的集落保全における法的枠組み—2015年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その13—」日本建築学会大会学術講演梗概集 pp.955-956 20.9
- 発 表**・SEA Sophearun, KEOV Diamand (APSARA, video presentation prepared by TNRICP), "Restoration on East Gate of Ta Nei Temple" The 34th Technical Session of ICC-Angkor 21.1.26  
・友田正彦、間舎裕生、浅田なつみ、ヴァル エリフ ベルナ: 「アンコール・タネイ寺院遺跡の保存整備」 東南アジア考古学会2020年度大会 20.12.12
- 刊行物**・"Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor-Progress Report of 2020" APSARA/TNRICP, 21.3  
・『東南アジアにおける木造建築遺産の保存修理 研究会記録/Conservation of Wooden Architectural Heritage in Southeast Asia Proceedings』東京文化財研究所 21.3

**研究組織** ○金井健、友田正彦、安倍雅史、間舎裕生、浅田なつみ、ヴァル エリフ ベルナ、岡崎未来(以上、文化遺産国際協力センター)、山田大樹(以上、客員研究員)、腰原幹雄、大石岳史、桑野玲子、大坪正英(以上、東京大学生産技術研究所)

## 保存修復技術の国際的応用に関する研究 (コ03)

**目 的** 文化遺産保護に関して諸外国が有する問題は、それぞれの地域、環境に応じて多種多様であり、それらへの対応には他国で実績のある既存の手法をそのまま適用することが必ずしもできない。そこで、本プロジェクトでは文化遺産の現地における持続可能な保存・修復・活用のための維持管理を目標に、各国における問題を分析し、現地に即した修復技法、材料を研究するとともに、当研究所を中心に諸外国の専門家ネットワークを構築し、意見交換、技術移転をすることで、現地担当者の育成を図る。

**成 果**

1. ミャンマー バガン遺跡における煉瓦造寺院外壁及び壁画の保存に向けた調査と修復方法の研究  
当初計画では、2020（令和2）年7月と2021（令和3）年1月に同遺跡 Me-taw-ya 寺院及び Lokahteikpan 寺院での現地専門家を対象とした人材育成事業ならびに保存修復事業を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響から当初計画を変更し、リモート会議を通じた維持管理に係る技術指導を行った。（オンライン会議：2020（令和2）年9月18日）
2. 旧和宇慶家墓の保存に向けた石垣市教育委員会文化財課及び外部専門家との共同研究（2020（令和2）年10月1日）
3. イタリア ウルビーノ大学との壁画及び石造文化財の保存修復に係る共同研究に向けた合同会議（オンライン会議：2021（令和3）年2月28日）

**論 文**・前川佳文、ダニエラ・マリア・マーフィーほか：「ミャンマー共和国バガン遺跡ロカティーパン寺院壁画の保存修復と国際協力事業」『保存科学』60 pp.99-110 21.3

**刊行物**・Capacity Building; a Conservation Project for the Repair, Strengthening and Recovery of Temple 1205a Archaeological Area and Monuments of Bagan, Myanmar 2016–2020, 令和2年度成果報告書 東京文化財研究所 197p 21.3

・Lokahteikpan Wall Painting Project, Pagoda 1580 Capacity Building Report, 令和2年度成果報告書 東京文化財研究所 177p 21.3

・旧和宇慶家墓の保存に向けた調査研究 令和2年度成果報告書 東京文化財研究所 50p 21.3

**研究組織** ○加藤雅人、前川佳文、牛窪彩絢(以上、文化遺産国際協力センター)、小峰幸夫(保存科学研究センター)

## 在外日本古美術品保存修復協力事業 (コ04)

**目的** 日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、日本文化財の保存修復専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、本事業では海外で所蔵されている日本文化財の保存修復に関する助言等の協力を行う。また本格的な修復が必要な美術作品に関しては日本で修復して返還する。さらに、特殊な条件にある海外作品に関して、その保存修復方法の研究を行い、成果を公開、共有する。

- 成果**
1. 作品修復
    - ア) ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア (オーストラリア) 所蔵「親鸞聖人絵伝」、絹本着色、掛軸4幅、修復完了、輸出
    - イ) ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア (オーストラリア) 所蔵「般若図」、絹本着色、掛軸1幅、輸出
    - ウ) モントリオール美術館 (カナダ) 所蔵「女房三十六歌仙貼交屏風」、紙本金地着色、屏風6曲1双、輸入
    - エ) モントリオール美術館 (カナダ) 所蔵「熊野曼荼羅」、絹本着色、掛軸1幅、輸入
  2. 報告書の作成・刊行
    - ア) 在外日本古美術品保存修復協力事業概要
    - イ) インディアナポリス美術館 (アメリカ) 所蔵「檜・八橋図」、紙本金地着色、屏風6曲1双
    - ウ) インディアナポリス美術館 (アメリカ) 所蔵「林和靖・太公望図」、紙本墨画、掛軸2幅
    - エ) インディアナポリス美術館 (アメリカ) 所蔵「煙寺晚鐘図・平沙落雁図」、紙本墨画、掛軸2幅



- 刊行物**・『在外日本古美術品保存修復協力事業』、東京文化財研究所 21.3
- ・『在外日本古美術品保存修復協力事業 檜・八橋図 No.2017-1』、東京文化財研究所 21.3
  - ・『在外日本古美術品保存修復協力事業 林和靖・太公望図 No.2017-2』、東京文化財研究所 21.3
  - ・『在外日本古美術品保存修復協力事業 煙寺晚鐘図・平沙落雁図 No.2017-3』、東京文化財研究所 21.3

**研究組織** ○加藤雅人、友田正彦、片渕奈美香、清水綾子 (以上、文化遺産国際協力センター)、江村知子、安永拓世 (以上、文化財情報資料部)、三本松俊徳、廣原大樹 (以上、研究支援推進部)、大河原典子、杉山恵助 (以上、客員研究員)

## 国際研修(コ05)

**目 的** 近年日本の材料や道具、保存修復の理念が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に直接日本の技術や知識を伝える場が求められている。そこで、国際及び各国の機関と共催、あるいは協力を得て、研修等を国内外において開催することで、保存修復関係者への技術移転、情報共有を行う。

- 成 果**
1. 国際研修「紙の保存と修復 (International Course on Conservation of Japanese Paper)」  
開催を予定して準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止とした。  
・参考(当初予定)  
期日：2020(令和2)年8月31日～9月18日  
主催：東京文化財研究所、文化財保存修復協力国際センター (ICCROM)  
会場：東京文化財研究所他国内  
参加者：10名
  2. オンラインセミナー「国際研修『ラテンアメリカにおける紙の保存と修復2012-2019』  
(Online Seminar International Course on Paper Conservation in Latin America 2012-2019)」  
期日：2020(令和2)年12月4日～11日  
主催：メキシコ文化省国立人類学歴史機構 国立文化遺産保存修復機関 (CNCPC-INAH)、東京文化財研究所、ICCROM  
会場：オンライン開催  
参加者：2012-2019年の研修修了者  
内容：複数のセッションに分けて、終了後の実践や経験の報告とそれを基にした和紙、装こう修理技術などその応用に関する討議を行った。セッションテーマ(技術の応用、クリーニング、教育普及、接着剤、補修、裏打ち、フラットニング)
  3. 記録作成  
2019(令和元)年に開催した国際研修「紙の保存と修復」の記録として、報告書とその補助資料としての装こう修理技術実習の動画を作成した。

刊行物・『国際研修「紙の保存と修復」2019』東京文化財研究所 21.3

**研究組織** ○加藤雅人、友田正彦、後藤里架(2019年7月まで)、五木田まきは(以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子(保存科学研究センター)、三本松俊徳、廣原大樹(以上、研究支援推進部)